

会議録

(1) 会議名

第3回北杜市八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会

(2) 開催日時

令和4年8月8日（月）午後2時～午後3時30分

(3) 開催場所

スパティオ小淵沢 イベントホール

(4) 出席者

委員

学識経験者	田中 敦
地域を代表する者	進藤 幸夫
地域を代表する者	遠山 俊祐
関係団体の代表者	佐野 極
関係団体の代表者	小林 明
関係団体の代表者	田中 充
関係団体の代表者	中村 洋一
関係団体の代表者	小林 昭治
関係団体の代表者	中山 宏樹
関係団体の代表者	宮沢 俊彦
関係団体の代表者	大川 正勝
関係団体の代表者	中沢 良一（代理委員）
関係行政機関	初鹿野 晋一
関係行政機関	渡辺 一秀（代理委員）
関係行政機関	安藤 明範
関係行政機関	有泉 清貴
関係行政機関	小泉 嘉透

市

関係部局長

事務局

北杜未来部長 宮川勇人
政策推進課長 川端下正往
政策推進課政策調整担当リーダー 篠原振一郎
政策推進課政策調整担当 清水将

(5) 議題

- ・活性化構想の概要について（将来像及び活性化策の検討など）
- ・その他

(6) 公開・非公開の別 公開

(7) 傍聴人の数 0名

(8) 議事の進行経過

1. 開会

午後2時00分

2. 新任委員等紹介

3. 公開の可否の審議

(事務局)「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第4条に、公開非公開の決定は会議の開催前にあらかじめ決定することが規定されている。ついては、同要綱第3条に基づき、本日の会議は公開としてよろしいか。

(委員一同) 異議なし

(事務局) 異議なしとのことなので、本日の協議会は公開とする。

4. 会長挨拶

(小林委員)

- ・今回は場所を小淵沢に移しての開催となったが、予想以上に人出があると感じた。
- ・本日スケートセンターを見ていただいた方もいるが、現在は施設の半分を工事している状況である。
- ・今後はもう半分の工事やスケートボード等の器具の導入を来年に掛けて行い、来年秋頃には完成を予定している。
- ・民間事業者も多く入っているため、県にも協力してもらおう中で、このエリアの活性化を図れるようにしていきたい。

5. 議事

(事務局) 協議会設置要綱第6条に基づき、小林会長に議長となつていただく。小林会長に議事の進行をお願いします。

(議長) 会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条により会議の会議録を作成し、公表することとなっている。

また、会議録には会議で指名する者、2名以上の署名が必要であり、議事録署名委員を委員の中から指名する。

前回会議から続き、「あいうえお」順で、安藤委員と小泉委員を指名する。

それでは、議事について事務局より説明を求める。

(事務局) 議事の(1) 活性化構想の概要について、別紙資料をもとに説明。

【以下、説明要旨】

- ・今回の会議の目的は二つある。一つ目が、前回の会議で再検討となった「目指すべき将来像」の妥当性について、二つ目が、本年度取りまとめる活性化構想の概要と、効果的な施策について、御意見をいただくことである。
- ・前回の協議会では、「目指すべき将来像」として、「スポーツ・アウトドアの聖地アドベンチャーリゾート小淵沢」を事務局から案でお示したところ、文言の選択について、再考するように御意見をいただいたところである。
- ・これを受け、第3回のワーキンググループ（以下、WG）において、改めてご検討をいただき、目指すべき将来像を、メインとサブの2つに分けた上で、メインテーマを、「Forest Resort 小淵沢」とした。
- ・次に、メインテーマを補足するための、サブテーマは「スポーツ・アウトドア・アートが織りなす、特別な体験に出会えるまち」とした。
- ・ありたい姿やターゲットについては、方向性は変わらないものであるため、変更していない。
- ・ありたい姿は、①家族で楽しめるスポーツとアウトドアの聖地、②都心から近い特別な体験ができるリゾート地、③一流の芸術と食で心身共に健康になれるまち、の3点である。
- ・ターゲットとしては、スポーツやアウトドア、健康に関心が高い、首都圏のファミリー層としている。
- ・活性化構想の構成は、これまでの協議会で審議していただいた内容をまとめ、構想の目的、現状と課題、目指すべき将来像と効果的な施策を記載し、今後の検討課題では、施策の実施主体のうち、事業者間の相互連携等が入ってくるものと考えている。
- ・効果的な活性化策については、それぞれのありたい姿となるための施策を検討することとする。
- ・1つ目の、「家族で楽しめるスポーツとアウトドアの聖地」に対しては、現状として、エリア内の移動手段や、ターゲットとなるファミリー層に合ったアクティビティの開発や、子ども向けイベントや初心者向けの体験教室の開催、ワンストップで各サービスにつなげる仕組みづくりが必要であると考えている。施策としては、エリア内を周遊できる移動手段の確保や、アクティビティを紹介する仕組みや体制整備、ターゲットに向けたプロモーションの推進、人材育成、イベントや教室の開催促進が挙げられる。
- ・2つ目の「都心から近い特別な体験ができるリゾート地」に対しては、現状として、近年のテレワークの普及に呼応するため、エリア内でのテレワーク環境を面的に拡大し、二拠点居住やワーケーションができる環境が求められていること、また、関係人口の増加に資する、農業体験など来訪者が地域との接点を持てる仕組みや、小淵沢エリア特有の馬やスケートなどのスポーツ、アート、アウトドアの環境を活かした誘客策が必要と考えられる。施策としては、テレワーク等の推進を図ること、エリアの特徴を活かした各種体験コンテンツの造成を挙げている。
- ・3つ目の「一流の芸術と食で心身共に健康になれるまち」に対しては、現状として、地域の美味しい食材を活かし、お酒や料理などを来訪者に楽しんでもらう取組が求められているほか、食やアート、アクティビティなど心身が

健康になれるウェルネスツーリズムを進めること、そして、各施設や事業者が連携して、エリアに誘客を図るための仕組みが必要と考えられる。施策としては、地産地消の推進、ウェルネスツーリズムの推進、施設やサービス等の相互連携による利用促進の強化が挙げられる。

- ・資料の最終ページでは、対象エリア全体で見た、将来像のイメージを、既存のものと、新たに加わる要素がイメージできる写真を並べ、それぞれが個々に、または連携して、誘客に向けた取組を進めていくことを表している。

【以上、説明要旨】

(議長) 事務局からの説明が終了したが、まずは目指すべき将来像について、皆様からの御意見を伺いたい。

(委員)

- ・松林の景観という話があったが、冬になるとスケートリンクに松葉が落ちる。競技場として、氷への影響がないような検討をしてほしい。
- ・馬術競技場の西側の歩道が安全になるよう見直してほしい。
- ・野外騎乗の整備が必要。乗馬クラブとも連携しながら、馬の道の整備を検討してほしい。
- ・県への要望だが、富士見町からのエコーラインを山梨県へつなげてほしい。

(議長) 松の葉について、今まで管理していたスポーツ振興局でのお考えをお聞きしたいがどうか。

(スポーツ振興局渡辺代理委員) 今までも競技に支障がないよう、松葉を掃くなど対応してきた。今後もスケートリンクとして運営する場合は、実施していただければと思う。

(議長)

- ・野外騎乗、馬の道については、農政部の渡辺参事が欠席のため、次回にご検討いただきたい。また、富士見町のエコーラインの整備に該当する部署もないため、市としても県へ要望していくこととしたい。
- ・馬術競技場の活用については、もっと出来ることがあると思うので、県でも検討をお願いしたい。

(委員) アドベンチャーツーリズムは世界的に通用する言葉であるため、テーマに残してほしい。ネット検索すると、アドベンチャーツーリズムはヒットするが、認知されていない「Forest Resort」ではヒットしない。

(事務局) アドベンチャーツーリズムやウェルネスツーリズム、アート、スポーツという言葉が前面に出ると、イメージが固定化しやすいため、聞く人によって良いイメージが広がりやすい、抽象的な文言にシフトした経緯がある。具体的な内容はサブテーマで表現したいと考えている。

(委員) 今は検索の時代なので、アドベンチャーリゾート(ツーリズム)で検索しても小淵沢は入ってこないことになるが、それで良いとの考えか。

(事務局) ホームページについては、「アドベンチャー何々」でも小淵沢がヒットするような構成にすることはできると考えている。

(議長) 「Forest Resort」が広がるような工夫は必要であるし、アート等でもヒットするようにするのは、ホームページの作り方次第と思う。事務局での検討をお願いしたい。

(議長) その他にはあるか。メインテーマ、サブテーマについて、「Forest Resort 小淵沢〜スポーツ・アウトドア・アートが織りなす、特別な体験に出会えるまち」ということでよろしいか。

(委員) 異議なし。

(議長) テーマについては案のとおりとする。次に、活性化策について御意見をいただきたいが、意見のある委員はお願いしたい。

(委員) スケートセンターにただ来てもらうだけでなく、商業的に売店などの施設を出店するなど、計画に入れてもらうことはできるか。

(事務局) この会議では詳しくお答えできないため、スケートセンターの所管課と協議が必要と考える。

(議長) この件は重要と思う。市や商工会で土地を借りて、自由に出店できるなど施策として考える必要がある。事務局でも検討をお願いしたい。

(委員) 実際の来訪者が抱くイメージと合っているか、関係人口、地域のコミュニティとのつながりまで含めての計画となると思う。また、アドベンチャーツーリズムはもっと広い概念であるため、テーマは今のままでも良いのではないかなと感じた。

(事務局) 今後はソフト面や運営面での課題も整理して、構想に織り込めればと考えている。

(委員) 全般的によくまとまっている。もう少し尖った部分があった方が良いが、計画としてはこのような形で良いと思う。特に、ありがたい姿に対しての具体的な内容を、もっと詰めた方が良いと考える。

(事務局) 尖った部分とのことだが、スケートボードがかなり特徴的な要素になると思うので、前面に出していくとともに、小淵沢に合った情報発信を行っていきたい。

(委員) とにかく目立つPRができるよう検討してほしい。

(委員) 活性化構想の推進体制は今の時点ではどのように考えているか。

(事務局) 今後、現状の課題等を整理し、具体的な活性化策を構想に盛り込む中で、民間で実施するものなのか、行政で実施するもののかなど、区分けがされるものと考えている。市としてはトータルの推進役として、もちろん市が実施する事業もあると考えているが、民間にも協力してもらいながら、観光行政で推進していくものと考えている。

(委員) 何をするのか、と推進体制は同時に動かないと事業は進まない。推進体制についても早めに検討を進める必要があると考える。

(事務局) 構想の中では、概要版の案にあるような関係者で推進体制を記載することになると思う。

(委員) 誰が実施するのか、例えば指定管理者なのかなど、そういった推進体制を聞きたいがどうか。

(事務局) スケートセンター自体は指定管理を想定しているので、指定管理者の中で知恵を出してもらい、その上で行政として支援できることはしていく。先ほど、商業面での意見ももらったので、それぞれの事業者等が連携しながら進めていく。今日の時点で、誰が実施するのかというのは言えないが、それぞれの関係者が連携しながら進めていくものと考えている。

(議長) 活性化策については、2つか3つ、大きな施策として目立つものを構

想の中に入れて、いつまでにどういう体制で取り組むかを盛り込めば、より良い構想になると思う。是非、事務局で検討してほしい。

(事務局) 県にも相談をさせてもらう中で、市としてもしっかりと構想をまとめていきたい。

(委員) 夏場はインラインスケートができるとのことで、日本ではあまり馴染みがないが、世界大会などもあるので、日本選手を呼んで教室を開催するなど、検討してほしい。また、商業施設としては、おしゃれなカフェなどの検討もお願いしたい。

(事務局) インラインスケート及びカフェについては、管理運営委員会や担当課にも伝える中で検討していきたい。

(委員) 教育旅行での活用などは、きちんとした指導者が入ると需要があると思う。また、アソビューなどのレジャーや遊びに特化したサイトを活用すると、サイト側からもコンテンツなどについてコンサルティングしてくれるので、施策として考えられる。

(事務局) アソビューについては、具体的な活用は研究段階だが、今後検討していきたい。

(議長) 活性化策についての意見は、以上とする。事務局では、第4回会議に向けて取りまとめをお願いしたい。

(議長) 次に、議事のその他について、何か意見等はあるか。

(委員) 弊社では県で行っていた観光型MaaS「シンゲンランド」の北杜版を実施する。また、立川エリアの店舗を活用して、小淵沢の特集を組み、体験型コンテンツと宿泊を合わせたプランを使ってアピールをしているので、今後も協力をいただきながら進めていきたい。

(委員) スケート場の整備に伴い、年間の観光客の人数はどれくらいを見込んでいるのか。また、観光客が増えることに伴い、浄化槽などへの対応が心配されるかどうか。

(議長) スケートセンター周辺の下水道については、市の方で新たに工事をして対応することとなっている。

(事務局) 今現在、スケートセンターのリンクを整備し、今年度後半からその内側を整備していく予定であるため、上級者から初心者まで楽しめる施設を目指していく。実際の競技人口も含めて、今後予想される観光客数等は示していければと思う。

(委員) 星野リゾートが体験型メニューを充実させている。そういったコンテンツとも連携したら良いと思う。

(事務局) 星野リゾートが家族で楽しめるコンテンツを実施していることは承知している。構想の案が煮詰まってきたところで、ご協力をいただけるか検討する。

(委員) 第4回会議の際に示される成果物はこういったものをイメージしているか。

(事務局) 次回会議は11月頃を予定しているが、資料にある目次の項目に従って、一つの冊子の形で示すことを考えている。

(委員) 推進体制がどこまで掘り下げられるかにもよると思う。なんとなく総花的なものができて、いつか予算が付いたら実施しましょうといったものに

ならないためにも、11月までに掘り下げて考えたいと思う。またWGの場でも話をするが、活性化施策をゼロベースで作るのではなく、既に実施しているものを追認する形で盛り込んでいかないと現実的ではないし、民間企業も動かない。秋までに検討をお願いしたい。

(事務局) 今の意見も含めて、WGにて検討を進めていく。

(議長) その他、委員からは無いようなので、事務局から何かあるか。

(事務局) 今までの意見と今後のWGでの意見を踏まえて、素案を作成し、次回会議で審議、承認をいただけるよう進めていく。また、会議までに書面等で意見を伺う予定であるため、その際にご協力をお願いしたい。

(議長) 会議の進め方についての発言だったが、これについて意見はあるか。

(委員) 意見なし。

(議長) 無いようなので、本日の審議は以上で終了する。事務局に進行を移す。

(事務局) 以上で本協議会は終了とする。

6. 閉会

午後3時30分